

2026 5/26

No.2259

毎月第2・第4火曜日発行

政経 かながわ

一般社団法人
— 神奈川政経懇話会 —



伝統行事「大^{おお}麻^ままつり」が、相模原市南区の相模川河川敷で行われた。今年の題字は「^{ほのかぜ}穂風」で「世界の平和も願って空に上がってほしい」と揮毫された。



contents

視点点描	3
差別を許さない街へ	
講演録	4
次の100年を見据えた大規模土地利用転換への挑戦 ～次世代産業を育む未来実装フィールドへ～ JFEホールディングス専務執行役員 岩山 真士	
経済双眼鏡	8
遺産を食いつぶすだけか	
よんななエコノミー	9
粉末化する社会と少子化	
管理職はつらいよ!	10
「翻訳係」になったら、少し楽になった	
言葉をことばで考える	11
一步遅れてついていく	
かながわTODAY	12
4月の主な経済ニュース	
神奈川景気データファイル	14

事務局だより

◇2026年6月定例講演会

6月25日(木)

午後1時50分ごろ～3時

メルヴェーユ(桜木町駅近く)

講師:日本ファクトチェックセン

ター編集長 古田 大輔氏

演題:ファクトチェックとリテ

ラシー ～偽情報に惑わ

されないために

※午後1時30分から同会場で

当会決算総会を開催予定

◇2026年7月定例講演会

7月9日(木)午後1時30分～3時

ロイヤルホールヨコハマ

(横浜市中区)

講師:BNPパリバ証券経済調

査本部長 河野 龍太郎氏

演題:世界経済の死角、日本経

済の死角

【お知らせ】2025年度決算総会は6月25日(木)午後1時30分から、メルヴェーユ(桜木町・県民共済プラザビル内)で開催予定です。総会后に6月定例講演会を開催します。

視点 点描



差別を許さない街へ

「日本で外国語を話すな」。こう
駅前で叫ぶ高齢男性とおぼしき人
間がいれば、女性とみられるカ
フェの団体客は「外人に土地が買
い占められている」。侮蔑をまっ
た「外人」という言葉を用い、デ
マを語ったその口で「今度パリに
行きたい」と続ける。

電車内では、学生らしき2人組
がアルバイト先の接客の会話を発

展させて盛り上がる。「英語が通
じない外人が来るとマジ面倒」。
スポーツクラブの指導者は酷暑で
体調を崩した子を評し、別の保護
者に対して言った。「白人の血が
流れているから暑さに弱い」
差別的、いや、差別そのものの
言動が最近、市中の日常会話にも
あふれ出ている。想像力の欠如と
いうか、おそらく何も考えていな

い。たとえ胸の内であろうと、そ
れは決して表に出してはいけない
ことだと分かっている。社会の
底が抜けている。

昨年末の在留外国人は412万
5千人余り。4年連続で過去最多
を更新した。他にも日本には多様
なバックグラウンドを持つ人が大
勢住む。多くの人が公共の場で言
葉の通り魔に切りつけられ、その
痛みを訴えることにも恐怖を覚え
ているのだ。この国で特権を持つ
て生きている者として本当に申し
訳ないし、胸がつぶれる。

圧倒的に優しさが欠けている社
会の背景には、昨今の政治の動き
があるのは間違いない。

「秩序」の名の下に規制を強め
る手法は、欧州のポピュリズム政
党のまねごとのようだ。外国人は
都合の良い労働力ではなく、生身
の人間である。政治は反差別の
メッセージこそ発信すべきだが、

その声は大手を振ってはびこる侮
蔑に比べてあまりにも小さい。

当方が4月に赴任した横須賀は
在日米軍基地を抱え、外国人労働
者もたくさん暮らす。先日取材し
たインナーナショナルスクールの
代表者は「排外主義が強まる時代
だからこそ、私たちの存在意義は
より大きくなっているかもしれない」と語っていたが、そう言わせ
てしまうことが悲しい。

政府が国連自由権規約委員会か
ら包括的差別禁止法の制定を求め
られて、もう10年以上になる。「誰
も一人にさせないまち」を掲げる
横須賀市。出自や宗教、セクシュ
アリティなどにかかると、いかな
る差別も決して許さない。条例
制定などを通じ、その先頭に立つ
街になってくれることを願ってや
まない。

(神奈川新聞社横須賀支社長・

下屋鋪 聡)